

平成31・令和1年度 学校自己評価システムシート（私立 立教新座高等学校）

目指す学校像：キリスト教に基づく人間形成を实践し、自由と自律を尊重する開かれた学校を目指す。
 重点目標：1 興味や関心を伸張して、自主的にテーマを持って真理を探究する力を養う。
 2 グローバルリーダーにふさわしい国際感覚を備えた人物を育成する。
 3 他者を尊重し、学校生活を通じて共に成長する他愛に満ちた人格を育む。

達成度：A ほぼ達成（8割以上） B 概ね達成（6割以上） C 変化の兆し（4割以上） D 不十分（4割未満）
 学校関係評価：学校関係者 9名 生徒 0名 事務局（教職員）4名

学 校 自 己 評 価				学校関係者評価	
年 度 目 標		年 度 評 価（3月31日現在）		実施日 2020年6月3日	
番号	課題	課題に対する取り組み	達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	一貫連携教育の充実	立教大学教員によるプログラムの継続と充実 特別聴講生制度やGLP受講制度の継続と充実	立教大学教員による理学部実験講座、観光学部フィールドワーク、経営学部ビジネス・リーダーシップ講習などを実施 立教大学の特別聴講生制度や立教GLP特別聴講生受講制度を利用して大学の講座を受講 キャリア教育の一環として卒業生によるOB講話会を実施 内部進学に関する推薦条項変更への対応	B	各種プログラムの継続と充実 聖公会関係学校教職員研修会の当番校としての準備
	卒業論文指導	問題発見や課題解決、表現などの指導 指導や評価についての検討	教育研究検討委員会にて継続審議 生徒への評価方法の見直し実施		指導や評価などに関する委員会答申の検討
	教職員研修	研修への参加奨励	教科教育や学会、人権教育、生徒指導、部活動指導リーダーシップ、IBSCなどの研修に参加 校内において、人権やインターネットに関する研修会を実施 救急救命講習を実施し緊急時の対応力を向上 「働き方改革」に向けて、問題点の点検		研修を受けやすい環境の整備 非常勤講師に対する救急救命講習の実施 緊急時の対応法を教職員へ徹底
	教育環境の整備	施設を用いた学習活動の確立 卒業生とその保護者に対するアンケートの結果検討 School Pass（緊急連絡手段）の運用拡大 緊急対応マニュアルの見直し ICT環境整備に向けて準備	School Pass 緊急連絡手段の積極的活用 ICT環境整備（図書検索システム更新、PC・CALL教室設備更新） 施設・設備・安全及び老朽化対策（照明LED化、野球部練習場、HR教室床改修、スタジオ、AV機器更新）		ICT化の推進（教職員Wi-Fi整備、教務システム更新） IT機器を利用した授業導入と環境整備 第一学友会館・温室の老朽化への対応 施設設備の安全及び老朽化対策（照明LED化、プレコート防水更新）
2	人権教育やボランティア活動	人権教育の充実 ボランティア活動の奨励、機会の提供 いじめ防止対策の充実 『いじめ防止基本方針』の見直し	学年ごとにさまざまなテーマの人権学習を実施 榛名や清里、地域の施設などにおいてボランティア活動を実施（一部、立教学院主催） いじめアンケートの複数回実施 ハラスメント問題点への認識深化	B	人権教育やボランティア活動の継続 立教大学ボランティアセンターとの連携 いじめ・ハラスメント問題の啓蒙活動
	情報リテラシー教育	インターネットの安全な利用やマナーの指導	生徒や保護者を対象とした講師を招いての講習会を継続実施		講習会の継続
	グローバル教育・リーダーシップ育成	本校のグローバル教育の推進 派遣留学学校（長期2名、短期24名）、及び、留学生受入校との良好な関係維持 リーダーシップ育成	S評価卒業論文の要旨を英語で執筆 交換留学制度の定着 課題解決型学習の成果発表 ギャップイヤー留学の継続 ホームステイ受け入れ家庭の増加 リーダーシップ育成講座の開講 発表活動を通してのリーダーシップ育成		将来に向けたグローバル教育の立案策定 東京オリンピック延期によるブラジル・オリンピックチームの受け入れ準備
3	学校生活の支援	学友会活動のサポート 多様な進路に対する支援 心理カウンセラーとの連携 特別支援教育の充実	学友会活動の充実 特別授業を通して大学教員による進路指導を実施 キャリア教育の一環として卒業生によるOB講話会を実施 特別支援教育に関わる組織の活性化 カウンセリングの充実 学校活動の可視化 — 広報誌web化・Facebook・Instagramの始動	B	保護者会や同窓会との連携強化 広報活動の充実 — 学校説明会の内容の見直し（生徒参加型） 特別支援教育の問題点の顕在化

学校関係者からの見・要望・評価等

- 立教大学との連携で、早期に学部候補を見いだすことは大変よい。継続を期待する。
- 大学教員によるビジネス・リーダーシップ講習などは他に類のないエグなものである。
- 大学教員や特別聴講生制度など、一貫連携教育を具現化していることを高く評価する。
- 生徒への評価方法の見直しは評価できる。
- 教職員が学ぶ姿勢が必要である。特に専門性の枠にとどまらず互いに授業改革のために授業見て学び合うことも必要と考える。
- 非常勤講師も対象に考えていることが評価できる。
- 緊急時の対応法を教職員に徹底している点が評価出来る一方で、教師の負担にならないかの危惧がある。
- 安全な環境作りを積極的に継続してほしい。
- School-pass運用の拡大を引き続き希望する。
- 整備すべき箇所を十分に把握できていると判断できる。
- いじめ防止対策の見直しを図ることは必要。取り組みを期待する。
- いじめアンケートの複数回実施は評価できる。
- キリスト教主義の学校として、教員、生徒の人権感覚の点検、効果的な人権教育の実施は男子校だからこそ必要と考える。中でも、女性に対しての人権感覚を高めてほしい。
- SNS利用の利便性、危険性をしっかりと指導してほしい。
- 保護者向けの講習会は評価できる。継続を期待する。
- 海外との交流を特別なこととせず、身近に感じさせることでグローバルな視点と意識が育つため、引き続き積極的な交流をお願いしたい。
- 留学制度推進は継続を期待する。
- 課題解決型学習がエグである。
- Facebookの更新が頻繁で広報活動が充実しているのが理解できる。HPのリニューアル、コンテンツの拡充はたいへん評価できる。
- 進学及び将来の相談がしやすい環境、カウンセリングの充実は継続してほしい。
- 保護者会においても、生徒による学友会活動の状況報告等を保護者の方に行いたい。
- 同窓会としては常に応援をしている。